



柿の実

令和元年度 11月号

学園だより

令和元年11月7日 発行

中央区立宇佐美学園

静岡県伊東市宇佐美545番地

輝きを放つ

園長 小久保 秀雄

秋が深まり、宇佐美学園の朝夕も冷え込みが感じられるようになりました。

9月、10月の2ヶ月間は、台風や暴風雨により各地で大きな爪痕を残したニュースが連日報道され、保護者の皆様には学園での様子が気になりだっただことと思います。学園では、子どもたちが安心・安全に過ごせるようにと、3階に避難をしたり、教職員が子どもたちと一緒に部屋で寝起きをしたり、食堂の調理師が寝泊まりをして朝食に対応するなど、学校部、寮部、食堂部が一体となって対応してきました。そんな中、子どもたちは慌てることなく、みんなで共に落ち着いて行動することができました。今後も、こうした状況には、学園全体で対策を講じ、対応して参りますので、よろしく願いいたします。

さて、10月19日(土)に行われた運動会にはたくさんの方々にご参観いただき、ありがとうございました。当日夜明けまでのあいにくの雨のため、体育館での運動会になりましたが、子どもたちは、「大事なのは場所じゃない。どんな演技・表現をするかだ。」

ということを心に置き、全力投球でがんばりました。

特に子どもたちが力を入れたのは、これまで数年間続いていた「学園ソーラン」から、新たな挑戦となった「エイサー」の演技。息の合ったかけ声、太鼓をたたくタイミングと音の響き、指先までもいきわたった全身の動きなど、一つ一つの演技に全神経を集中して表現する姿は、まさに圧巻でした。すべての演技を通して、「仲間と共に 力の限り バトンをつなげ 新時代へ」というスローガンのとおり、輝きを放ち、平成から令和へと伝統をつなぎ、これからの宇佐美学園の歴史を刻む運動会となりました。どの行事を通して、毎回思うことですが、宇佐美っ子の素晴らしいところは「全力でがんばれる素直さ」です。この心があるからこそ、運動会で輝く姿が披露できたのだと感じています。

2学期終了まで、あと2ヶ月。子どもたちがたくさんの輝きを放ち、終業式を迎えられるように、教職員一同、励んで参ります。



運動会 エイサー



運動会 一輪車